

多度津町内遺跡発掘調査報告書

平成 4 年度国庫補助事業報告書

平成 5 年 3 月

多度津町教育委員会

多度津町内遺跡発掘調査報告書

多度津町教育委員会

序 文

多度津町の南部に位置する三井地区一帯は、弥生時代前期後半の遺跡があることが、古くから知られていました。周辺の弥生遺跡としては、中の池遺跡（丸亀市）あるいは五条遺跡（普通寺市）がありますが、弥生時代を考えるうえで当遺跡は重要な位置にあると思われます。

この三井遺跡の範囲確認のため、発掘調査を、平成4年度の国庫補助事業として実施しました。

調査は、5条の溝状遺構に堆積した黒褐色粘質土中より、土器・石器・木器等が多量に出土、測量・写真等の記録のうえ、埋め戻しを行い、終了しました。

調査の結果、予想以上の成果があり、今後の弥生時代の埋蔵文化財の研究資料として、役立つものと確信しております。

最後になりましたが、この調査にあたり、ご指導とご協力をいただきました香川大学教授丹羽祐一、香川県教育委員会文化行政課、(財)香川県埋蔵文化財調査センターならびに地元関係者の方々に厚くお礼申し上げます。

平成5年3月

多度津町教育委員会
教育長 福崎重一

例　　言

1. 本書は、多度津町教育委員会が平成4年度国庫補助事業として実施した、多度津町内遺跡発掘調査の報告書である。
2. 今回の遺跡発掘調査は、今後開発が予想される地域における埋蔵文化財の基本資料作成及び範囲の確認を目的とし、三井遺跡内を対象とした。
3. 発掘調査は、多度津教育委員会が事業主体となり、調査の実施にあたっては、多度津町教育委員会社会教育課 岡 敦 憲 が担当した。
4. 調査にあたっては、作業員として

　　塩田浩一・藤沢進・池田敬子・山口ハルミ・松本紀子

　　諸氏の協力を得た。

5. 本書の作成作業にあたり、執筆・遺物写真は、岡が担当し、実測・トレース等の作成については、

　　葛西 熱、石川ゆかり、西山佳代子、猪木原美恵子、陶川真由美
　　前田好美、石原まり子、真鍋裕子、三谷和子

　　の協力を得た。

6. 本書に用いた方位は全て指針方位でしめす。
7. 出土遺物及び図面は、多度津町立資料館にて保管している。
8. 発掘調査・整理期間を通じて、次の方々より多大なご指導をいただき、記して謝意を表したい。(敬称略・順不同)

　　香川大学教授 丹羽祐一、香川県教育委員会文化行政課

　　(財)香川県埋蔵文化財調査センター職員西村尋文・大久保徹也・高橋佳緒里

目 次

第1章 平成4年度多度津町内遺跡発掘調査にいたる経緯	(6)
第2章 三井遺跡発掘調査		
1 立地と環境	(7)
2 発掘調査概要	(9)
(1) 位 置	(9)
(2) 南区調査概要	(10)
① 遺構について	(10)
② 遺物について	(11)
(3) 北区調査概要	(12)
① 遺構について	(12)
② 遺物について	(13)
第3章 まとめ	(14)
図 版		

写 真 目 次

写真 1 発掘調査風景	(10)
写真 2 南区全景	(10)
写真 3 南区遺物出土状況	(11)
写真 4	(11)
写真 5 北区遺構検出状況	(12)
写真 6 北区遺物出土状況	(12)

挿 図 目 次

第1図 多度津町の位置	(6)
第2図 付近の遺跡位置図	(8)
第3図 発掘調査位置図	(9)
第4図 南区遺構配置図	(10)
第5図 北区遺構配置図	(12)
第6図 北区遺物実測図	(14)

第1章 平成4年度多度津町内遺跡発掘調査にいたる経緯

当町の埋蔵文化財は、そのほとんどが未調査のまま、現在に至っている。このため、早急に発掘調査を実施し、遺跡の確認を行い、今後の開発に対し、十分に対応しうる資料を作成することが、急務となっていた。このため、香川県教育委員会と協議し、平成4年度の国庫補助事業として、多度津町内遺跡発掘調査を実施することとした。

当初の多度津町内遺跡発掘調査の予定は、北の前古墳・岡古墳・三井遺跡の3地区であった。北の前古墳・岡古墳は、一部墳丘が削平あるいは石室壁石が露出、倒壊する危険性があり、また墳丘を失っており、早急に調査し、記録することが急務となっていた。

しかしながら、三井遺跡の調査において、調査面積は45m²ではあったが、多量の遺物（土器・石器・木器等）が出土したため、以後の調査を変更、調査対象地を三井遺跡のみとした。対象地は、多度津町大字三井字樋の口276・277、281-1・281-2の2箇所とした。

同遺跡は、過去において周知の埋蔵文化財包蔵地として知られてはいたが、表掲等による断片的な資料のみで、正式な発掘調査等は行われていなかった。

そこで、今後予想される大なり小なりの開発等に伴う事前調査として、三井遺跡の範囲指定あるいは時代考証のための初めての資料作りとして、比較的調査可能な農閑期に実施することとし、平成4年11月27日から同年12月17日までの21日間、調査を実施した。



多度津町の位置

第2章 三井遺跡発掘調査

1 立地と環境

三井遺跡は、香川県中部の丸亀平野北西部に位置している。多度津町大字三井字樋の口を中心とし、表採により弥生時代前期の遺物（土器・石器）が確認されているが、正確な位置・範囲については、不明である。南は善通寺市に拡がりをみる地域と考えられている。

弥生時代の遺物については、この地域から北へ約1.8kmに位置する多度津中学校付近においても確認はされているが、現在のところ、三井樋の口付近が、町内における最も古い歴史のある地域となっている。また、この付近一帯は、現在、水田として利用されている。次頁の図でもわかるように、条里造構が克明に残っており、居住性・生産性ともに適した地域である。

遺跡としての知名度は高く、諸先生方の研究等により、古くから、香川県中部の弥生時代前期の遺跡として、紹介されている。

付近に所在する弥生時代の遺跡では、東は丸亀市の中の池遺跡、南は善通寺市の五条遺跡等が確認されている。また、木器等が多量に出土した弘田川上流には善通寺境内裏の善通寺西遺跡などがある。



付近の遺跡位置図

- ① 三井遺跡
- ② 舟岡山遺跡
- ③ 盛土山古墳
- ④ 向井原古墳
- ⑤ 天霧城跡

2 発掘調査概要

- 1) 所在地 多度津町大字三井字樋の口276・277・281-1・281-2
- 2) 調査期間 平成4年11月27日～12月17日
- 3) 調査面積 45m²

(1) 位置

現場は、県道多度津善通寺線から西へ約100mの地点であり、善通寺市と境界線ぎわに位置する。

サヌカイト片あるいは土器片等が多く表採される地域であり、遺構の存在を確認するには、適した場所である。



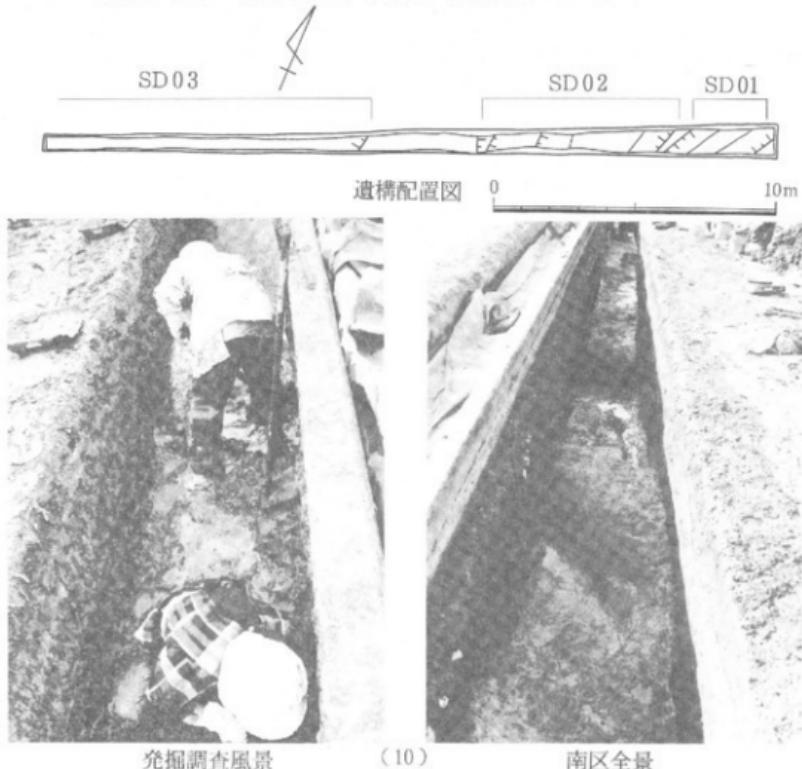
(2) 南区調査概要

東西方向にトレーナーを設定し、包含層ならびに遺構の深度について、調査した。

遺構面は、弥生時代前期の単一遺構面を確認した。

① 遺構について

遺構は、調査区の東側に2条の溝状遺構及び西側で溝状遺構と思われる遺構を1条検出。埋土は、すべて明黒褐色粘質土であり、遺構方向は、南北方向であった。SD01と02は、上面での区別がなく、下層部分で分岐していた。しかしながら、調査区域が狭かったため、全体の把握はできなかった。また、西側遺構（仮称SD03）については、上記理由により、完掘できなかったが、板材の両側に杭を打ち固定した遺構を確認。水田の可能性もあり、今後の検討課題である。



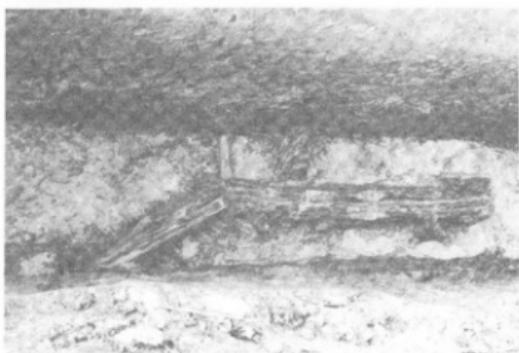
② 遺物について

遺物は、耕作土からもサヌカイト剥片及び石鏃を含む石製品及び弥生土器片等の出土がかなりあったが、上記遺構から石包丁（打製・磨製）・石鏃・石皿・砥石・スクレーパー・石斧（打製・磨製）等多彩な石製品及び甌・壺・壺等の弥生土器、また、木器として、未完成品（農耕具のたぐいか？）・用途不明品（椀あるいは大型スプーン状のもの）等が出土した。

耕作土中を含め、そのほとんどが弥生時代前期の遺物であり、明らかに時代の異なる遺物は、全遺物中3点のみであった。



遺物出土状況



(3) 北区調査概要

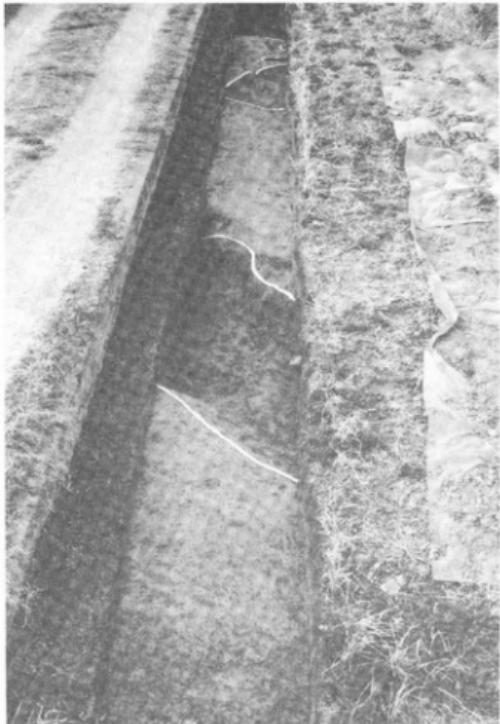
① 遺構について

調査は、南北トレンチを設定し、南区同様、包含層ならびに遺構の深度について、調査した。

基本的には、耕作土直下遺構面であった。

遺構は、調査区の北側と南側で1条づつの比較的浅い溝状遺構及び土坑状遺構を検出した。溝の方向は、東西であったが、高低差は不明である。埋土は、基本的に明黒褐色粘質土であり、南区の遺構と時期を一にしている。

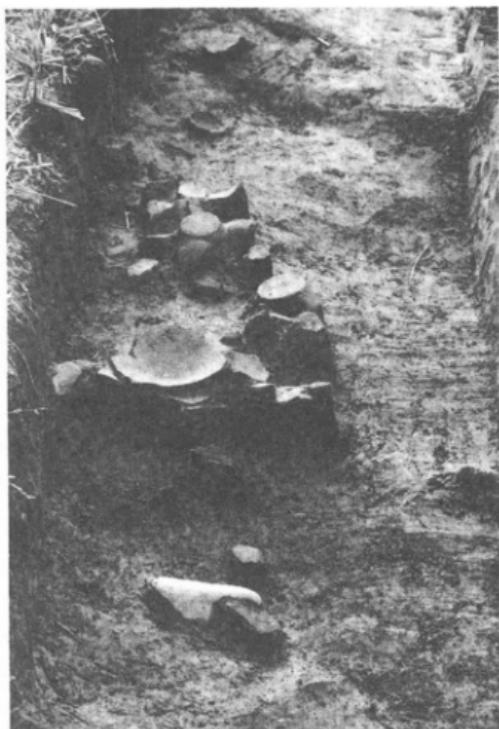
また、土坑状遺構については、一部しか確認できなかったため、隅丸方形プランをもつ堅穴住居跡の可能性もあり、今後検討を重ねていきたい。



遺構検出状況

② 遺物について

遺物は、南区と同時期のものと思われる鉢・壺等及び若干の剥片を含む石製品を出土するにとどまった。



遺物出土状況

第3章 まとめ

調査面積45m²という制限のなかで予想以上の成果が得られた。

- ① 耕作土から手掘り調査であったが、遺物は弥生時代前期のものに限定される。
- ② 耕作土・包含層中より、サヌカイト剥片及び石鏃等の製品が多量に出土。
- ③ 遺物については
 - (a) 石器は、石鏃・スクレーパー・石皿・石包丁等種類が多い。
 - (b) 土器についても、鉢・壺・甕・甌等種類は多い。
 - (c) 用途等は不明であるが、木器が若干出土した。

などである。

以上の結果から、三井遺跡が弥生時代前期の遺跡であることが確認され、今後付近の調査時の基礎となる資料を多量に得たことは、予想以上の結果であった。今後、これらの資料を基にして検討を重ね、遺跡の性格解明及び範囲の確定、丸亀平野における三井遺跡の役割等について、考えていきたい。

なお、多度津町内では、盛土山古墳、御産監山古墳、宿地古墳、向井原古墳等が存在するが、平野部の埋蔵文化財については発掘調査がなされていなかったため、町内における埋蔵文化財の分布状況については、十分とは言えない。また、古墳の調査についても墳丘測量及び石室内実測含む数箇所の調査が行われたにすぎず、資料が乏しいのが現状である。今後、一つ一つの積み重ねにより調査研究し、その全容について、解明していきたい。

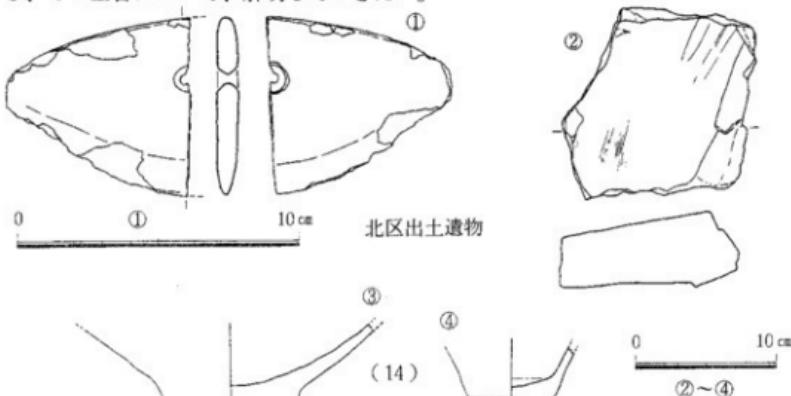
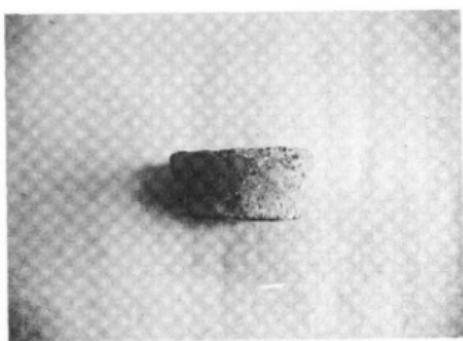
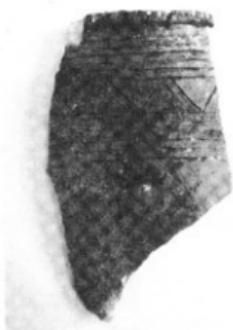
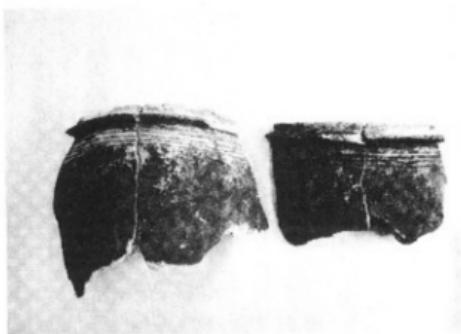
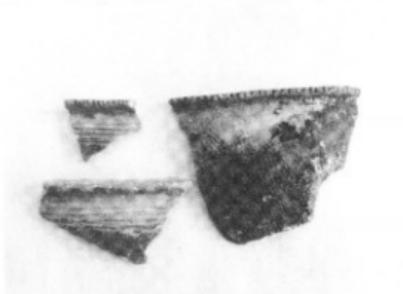
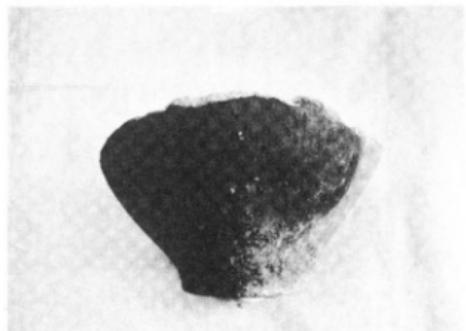
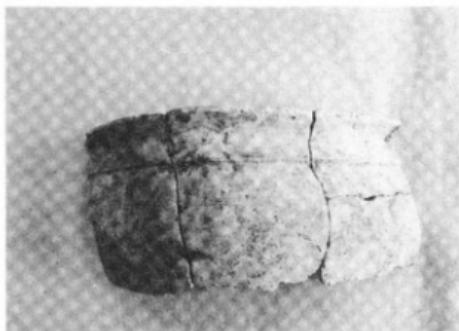
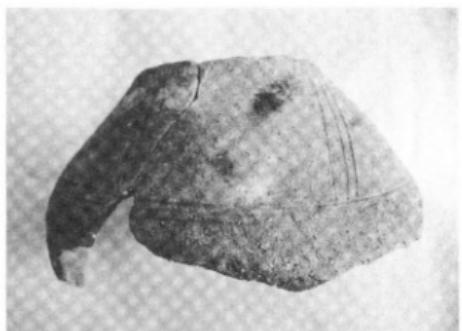
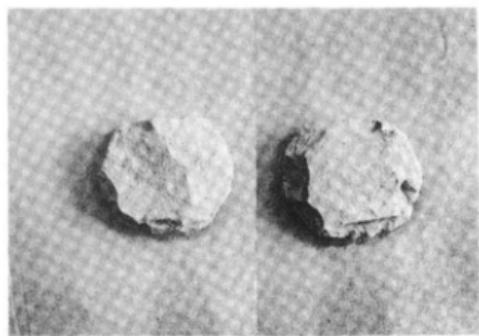
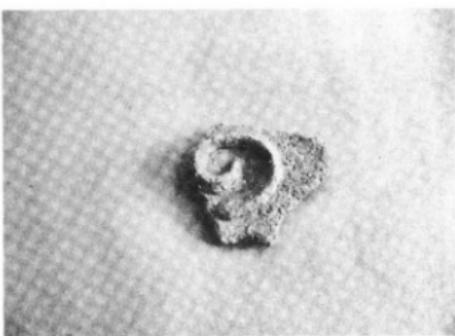
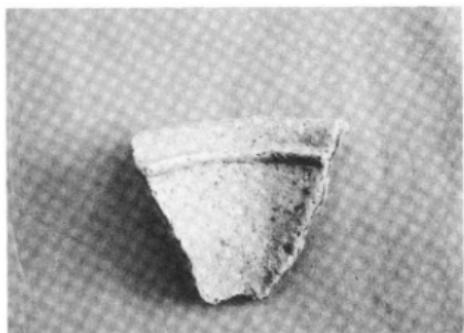
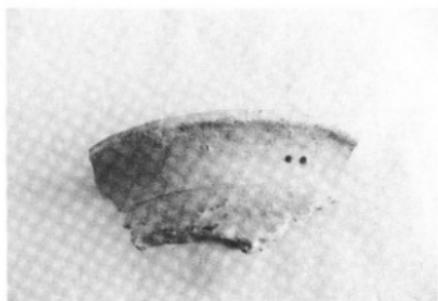
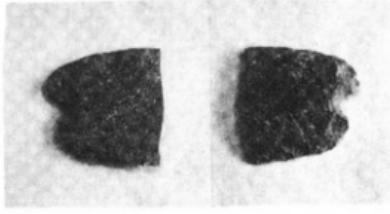
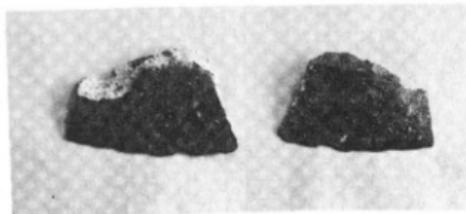
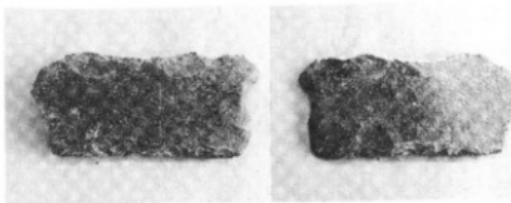
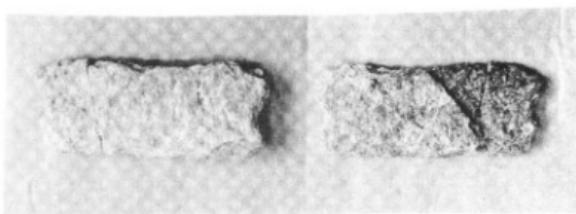


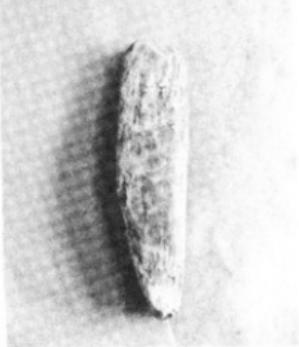
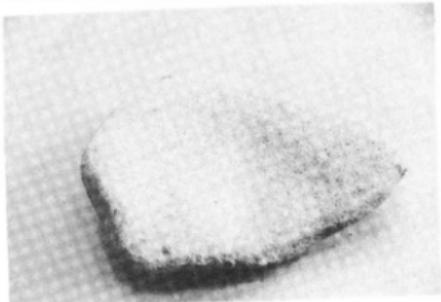
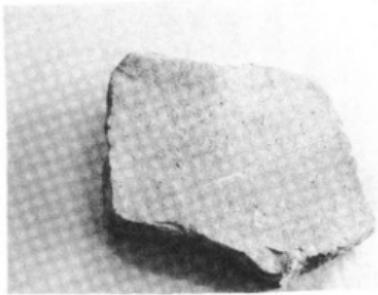
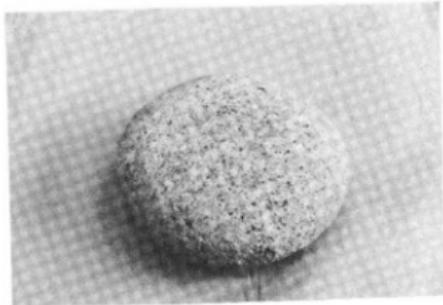
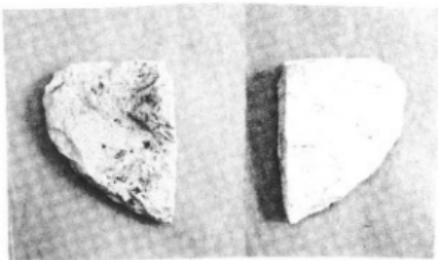
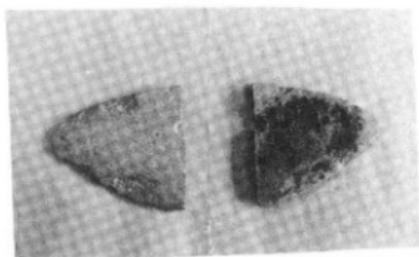
図 版

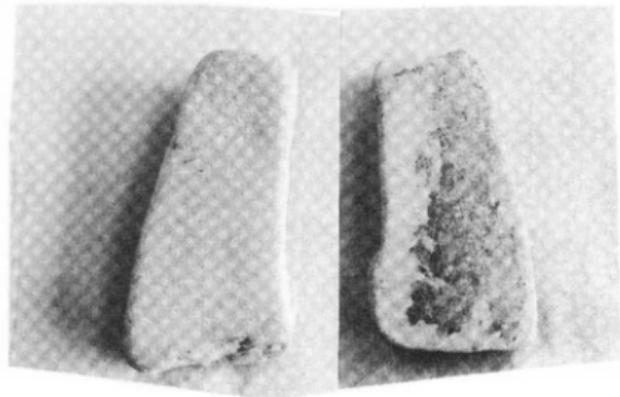
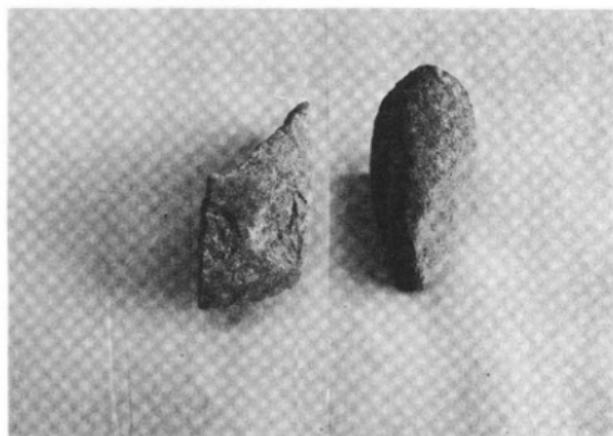
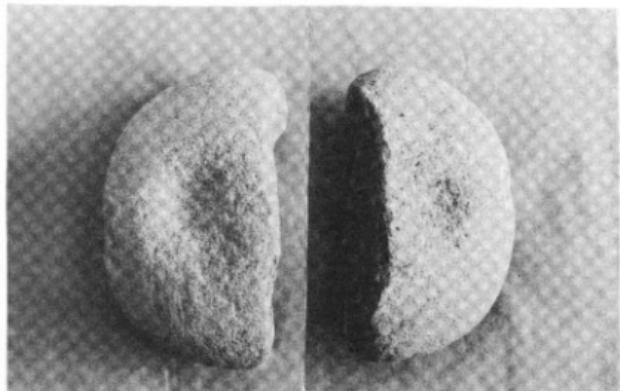






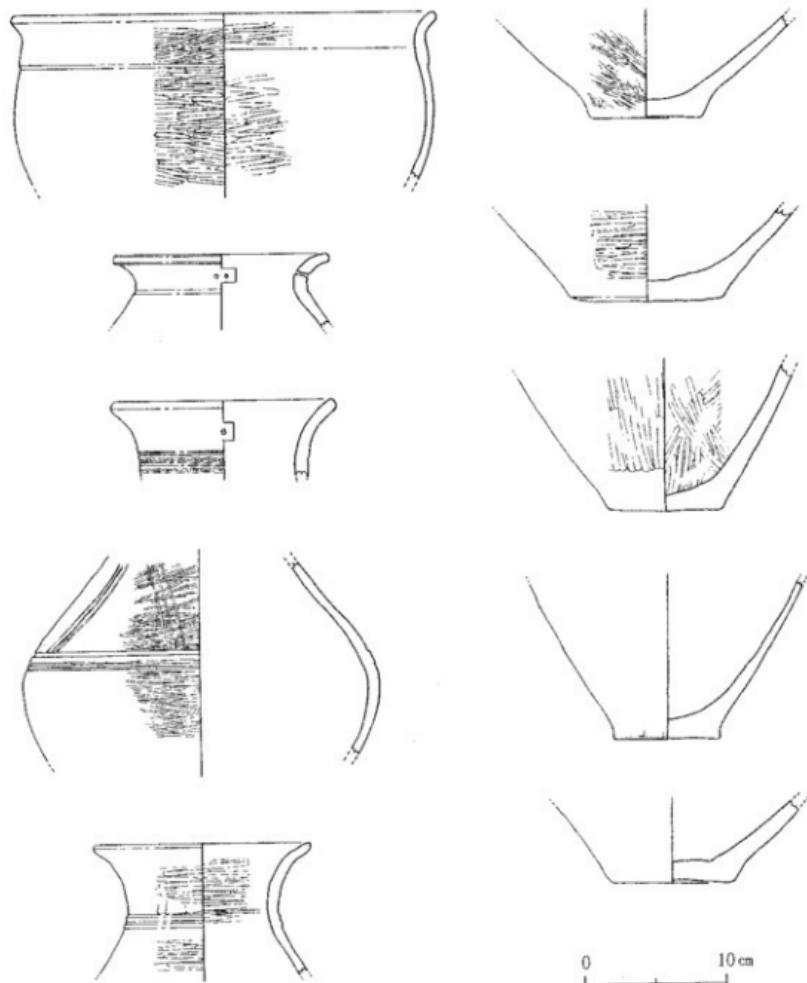




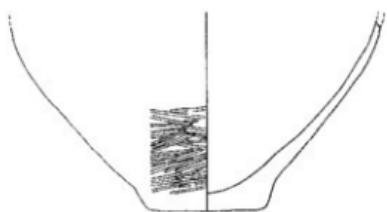
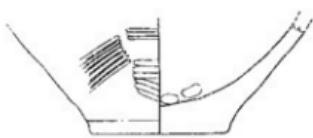
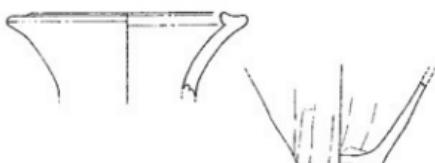
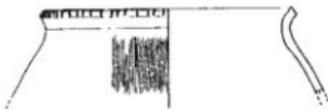
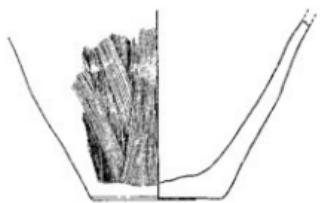




南区 SD01 出土土器



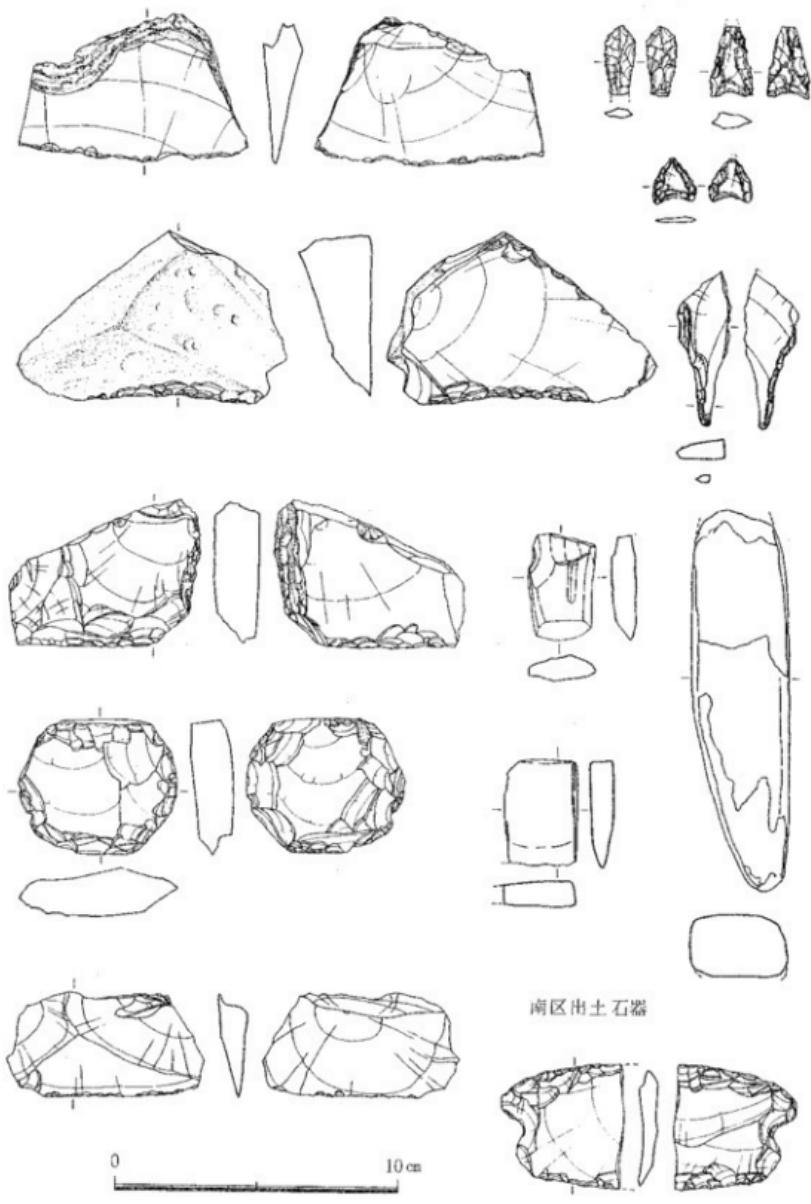
南区 SD 02 及び SD 02 ~ SD 03 の間
出土土器



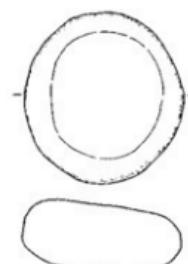
0 10 cm

南区 S D 03 出土土器

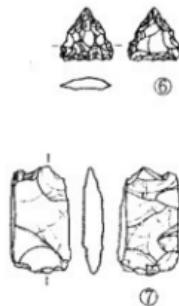
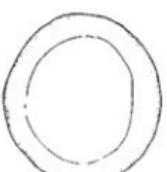




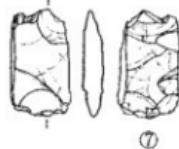
南区出土石器



①



⑥



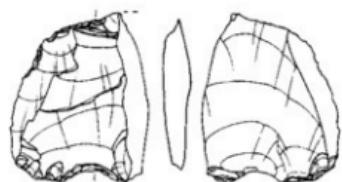
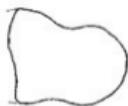
⑦



③



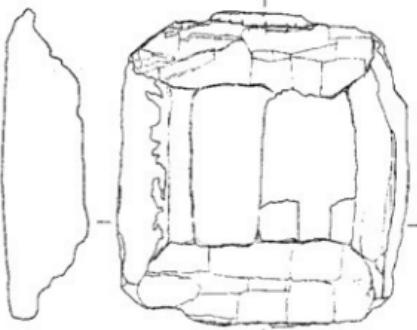
⑧



⑨



④

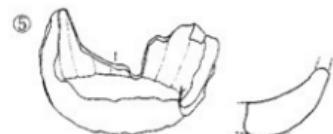


⑥～⑩



①～⑤

南区出土石器及び木器



⑤